

9月号 こどもに寄り添うということ

かしわしこども未来学習会のスタッフマニュアル 4 ページに、学習会の 5 つの基本方針が示されています。そのひとつに『個々に応じた寄り添い』があります。続けて『一人ひとりのこどもの状態を鑑みながら、こどもが目標を決め、それを達成できるように応援すること』と書かれています。こどもの成長をサポートするためには、こどもに寄り添った対応が必要になります。では具体的にどのような姿勢で臨めばよいのか、改めて考えてみましょう。

1. こどもの話に耳を傾けること

自分が話す以上に、こどもの言葉に耳を傾けることが大切です。会話の比率は「聴く 7 割：話す 3 割」ぐらいのイメージでしょうか。こどもを応援したい気持ちのあまり、つい自分の話ばかりしてしまうことはありませんか。小中学生の年齢では自分の気持ちをうまく言葉に表せないことがあります。話が途切れて沈黙の時間があっても、こどもの次の言葉を待つようにしましょう。

2. こどもの気持ちを尊重すること

単に「聞く」だけではなく、こどもの表情や、声のトーン、話し方にも注意を払いながら、こどもの気持ちを理解するように努めます。こどもが口では「大丈夫」と言っている、その場では話をしたくないだけかもしれません。こどもの態度や、言葉遣いなどいつもと異なる点はないか、こどもの様子をよく観察しましょう。声をかけずに、そっとしておく時間も時には必要かもしれません。

3. こどもの立場に立つこと

こどもの意見や考え方を即座に評価せずに、なぜそう考えるに至ったか、背景にあるものに関心を持つことが大切です。こどもとの何気ない会話のなかで、すぐには理解しがたい発言があったとしても、頭から否定せずに、その場ではいったん受け止めるようにしましょう。

4. こどもに考えさせること

何か課題が見つかったら、つい先回りして答えを示したくなりますが、過去の常識は、現在の常識と必ずしもイコールではありません。大人の経験や価値観はいったん脇に置いておき、こども自身が考えたり、調べたりする時間をとりましょう。たとえすぐに結論が出なかったとしても、こども自身が「自分で考え」「自分で選択する」経験を重ねることで、こどもの自立心の成長に繋がるはずです。

以上、何点か挙げてみました。大人が良かれと思っていても、こどもの受け止め方はいろいろです。こどもに向き合う際には、こどもそれぞれに寄り添った対応が必要になりますね。